資料１１

10 年後のまちの姿への自由意見（鳥居委員作成）

区民意識調査の資料を拝見すると、他区比較でみたとき、ずっと住み続けるが、異常値と言ってもよいほど低いことに生まれてから中野に居続ける身として、大変悲しい思いでいます。この原因は、住宅事情、子育ての問題、医療の問題など、最初は良くても、住みつづけて家庭の状況が変化すると、とたんに住みにくい、あるいは他区、他地域のほうが住みやすい、そんなところにも原因があるように思います。また、20 年以上昔から中野に住居を構える区民、商売を経営する区民にとっても、中野という街はやさしくないなと思うところがしばしばあります。建物の建て替えがままならない、商店街を活性化させる抜本的な仕組みが整っていない、あっても活用という点で、効果的に周知できていない、やり方がわからない、継続性がない、というのが原因にあるように思います。「物は用意したから、あとはご自由にお使いください」というスタンスよりも、行政の方から手を差し伸べていく活動を増やしていったほうが区民としてうれしく思います。

私の夢は一言で言うと、一体感のある中野の街です。ではどうしたら街全体の一体感が生まれるのか、あるいは生まれやすいのか考えたとき、杉並で言えば阿波踊り、中野で言えばエイサーのようなお祭りがあると良いのかもしれません。あるいは、埼玉の浦和レッズのようにプロスポーツクラブチームのようなものがあると良いのかもしれません。子供から大人、高齢者が共通して楽しめるツール、シンボルがあり、それが１つの歴史、伝統として根付いたとき、とても強固な一体感のある街になるような気がしています。全ての商店街で一斉にエイサーのお祭りが開催されたり、応援するプロスポーツチームの試合の時は、地域の公共の広場や、商店街の一角を使って、みんなでテレビ観戦、ちょっとしたパブリックビューイングで応援する、そんな誰もが楽しめる共通の夢の中で、地域のコミュニティは強固になり様々な問題が解決していくような気がします。やり方次第、自分たち次第で、それは決して夢物語ではなく、実現していくように思います。

以上